

生徒アンケートから

○ほとんどの項目で向上がみられる（前年比）

○授業や学校行事、部活動では前向きな取り組みがあり、達成感を味わうことができている生徒が多い。

○授業への取り組みにおいては◎。家庭学習での学習習慣は多いとはいえない△。しかし、学年を追うごとに家庭学習時間が増加する傾向がみられる。

○安心感のある学級が育ってきた・・・相談できる先生の存在、思いやりをもって仲間と接しようとする生徒の存在◎ 一方で、1割程度が不安を抱いている。

●「将来に対する夢や希望、挑戦する心、向上心、基本的生活習慣、自己肯定感の質問項目で肯定的な回答が7割前後であり、もう一歩踏み込んだ実践が必要と考える。

●将来に対する夢や希望を持っている生徒や自分のよいところを認め、自分らしさを大切にしている生徒（浜松市の目指す子供）がどちらも7割前後であり、もう一歩踏み込んだ実践が必要と考える。

《改善策》

- ・生徒の活動をほめたり、仲間の活動を認め合ったりするなど自己肯定感を高めるような活動を考え仕組んでいきたい。
- ・落ち着いた生活が送れるように基本的な生活習慣（あいさつ、返事、時間を守る、聞く時と発言するときのメリハリをつけるなど）をきちんとできるようにしていくこと。
- ・学校教育目標にある「豊かな心」については向上がみられるが、「未来を創造する」の一面を磨き高めていくことが次年度の課題と考える。そのために、「未来を創造する」とは具体的に何をする事なのか話し合う時間を設ける。

保護者アンケートから

○体育大会や合唱コンクールなどの行事に一生懸命取り組んだと感じている。

○「生徒や保護者が相談しやすい関係づくり」、「いじめのない集団づくり」といった点では一定の評価をいただいた。

●多くの質問事項で大きな変化がない。

●学校教育目標「豊かな心をもち、未来を創造する生徒」の周知が十分とは言えない。

●「生徒の家庭学習の習慣の定着」について、改善は見られるが、保護者として充分とは考えていない。

●「生徒の節度をもった SNS の利用」では多くの保護者が不安を感じている。

●「生徒や保護者が相談しやすい関係づくり」、「いじめのない集団づくり」について否定的な意見が 50 件程度残っている。

●学校からのたよりに期待をする声が多く。今まで以上に情報発信に努める必要がある。

《改善策》

- ・雄踏中の学校教育目標は、浜松市の目指す子供像とも一致している。まず、教職員がそれを常に意識できるよう、校内の様々な場所に掲示する。また、道徳や行事、部活動などあらゆる機会を利用して、夢や目標を持つことの大切さを伝える。
- ・生徒の活躍を認めることを通して生徒個々の自己肯定感を高めたい。
- ・生徒の現れを中心に今まで以上に情報発信に努める。
- ・SNS 等の利用に関しては学級活動、たより、講師を招いての講話等でモラルの向上、注意喚起を行う。

教職員自己評価から

○ほとんどの項目で向上がみられる（前年比）

○職員のあいさつ、思いやりある行動の指導、個を尊重した指導、自己肯定感を高める活動を仕組むなどの積み上げの結果、生徒、保護者のアンケート「相談しやすいと感じる」の向上につながった。また、「豊かな心」の部分の向上につながったと考える。

○昨年度に引き続きに ICT の活用は拡大傾向にある。

- ・ICT をどのように活用するのか特に、情報の交換、収集、提供など効果的、効率的な利用について職員のスキルアップが次の課題と言える。

★学校教育目標にある「豊かな心」の部分の向上は見られたが、「未来を創造する」活動について十分とは言えない状況にある。次年度は生徒や保護者が「未来を創造する」といった視点で主体的に強い意志をもって取り組めるような活動を仕組んでいきたいと考える。

○学校評議委員会の周知は進んできた。

●働き方改革についてなかなか進んでいない

《改善策》

- ・ICT の活用は進んでが、どのように活用するのが課題である。特に、情報の交換、収集、提供など効果的かつ効率的な利用方法について、職員のスキルアップのための研修会を実施する。
- ・働き方改革の一環として、業務の精選、効率化を進める。
- ・何かあってからの指導に力を注ぐのではなく、未然防止ができる集団づくりを進めるために日常のあたりまえの指導を積み上げる。
- ・学校評議委員会は、担当教員以外関わりが少ない。職員が運営協議会に参加したり、評議委員会での熟議事項を職員に伝えたりすることで、理解と協力を深めたい。